イ　剣道　第１学年

手順２　**２年間を見通して，指導事項をバランスよく配置します。**

他領域と違い中学校で初めて学習する武道は，安全面に配慮し，興味関心を引き出す指導内容が求められます。指導事項については，２年間の年間指導計画における実施時期や配当時間等を踏まえ，指導事項を配置します。

「知識及び技能」については，１２の指導事項を各学年６つに分けて指導機会を設けています。「技能」については，１年生で基本動作を中心に取り上げます。また，「思考力，判断力，表現力等」及び「学びに向かう力，人間性等」の指導事項は，「内容のまとまり（第１学年及び第２学年「Ｆ武道」）」に対して示されていることから，意図的，計画的に配置します。

第１学年及び第２学年「武道」における２年間を見通して指導事項の配置

●…重点指導事項
○…複数回での指導機会
＊…評価対象とせず指導する機会

		指導事項	剣道（第１学年） 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	剣道（第２学年） 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
知識		１武道の特性		●																		
		２武道の成り立ち，伝統的な考え方	●										＊									
		３技の名称や技術的なポイント					＊		＊		＊				●							
		４主として高まる体力要素が異なる												●								
		５試合のルール，審判，運営の仕方						＊							＊	●						
技能	剣道	１自然体で中段に構える		●									＊									
		２歩み足や送り足をする			○	●							＊									
		３面や胴や小手の部位を打ったり受けたりする				○	●							＊								
		１二段の技　小手－面							○	●					＊							
		２二段の技　面－胴														○	●					
		引き技　引き胴																○	●			
		抜き技　面抜き胴									＊									○	●	
思考力，判断力，表現力等		１仲間の課題や出来映えを伝える						●		○												
		２課題に応じた練習方法を選ぶ														●						
		３学習した安全上の留意点を仲間に伝える					＊		●													
		４よい取組を見付け，理由を添えて他者に伝える																●				
		５仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行																		●		
学びに向かう力，人間性等		１積極的に取り組もうとする									●											
		２相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとす			●																	
		３分担した役割を果たそうとする						＊		＊							○		●			
		４一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようと										＊									●	
		５禁じ技を用いないなど健康・安全に留意する		＊				●														

手順３　**例示等を基に，第１学年及び第２学年の内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を設定します。**

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
・武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることについて，言ったり書き出したりしている。 ・武道には技能の習得を通して，人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて，言ったり書き出したりしている。 ・武道の技には名称があり，それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあること学習した具体例を挙げている。 ・武道はそれぞれの種目で，主として高まる体力要素が異なることについて，学習した具体例を挙げている。 ・試合の行い方には，ごく簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。	○　基本動作 ・構えでは，相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。 ・体さばきでは，相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。 ・基本の打突の仕方と受け方では，中段の構えから体さばきを使って，面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすることができる。 ○　しかけ技 〈二段の技〉 ・最初の小手打ちに相手が対応したとき，隙ができた面を打つことができる。（小手−面） ・最初の面打ちに相手が対応したとき，隙ができた胴を打つことができる。（面−胴） 〈引き技〉 ・相手と接近した状態にあるとき，隙ができた胴を退きながら打つことができる。（引き胴） ○　応じ技 〈抜き技〉 ・相手が面を打つとき，体をかわして隙ができた胴を打つことができる。（面抜き胴）	・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から，自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。 ・練習の場面で，仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。 ・体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け，仲間に伝えている。	・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ・用具等の準備や後片付け，審判などの分担した役割を果たそうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 〈「禁じ技」の説明〉 ・「突き技」とは，喉付近にある突き部を，両肘を伸ばしながら突く技であるが，安全上の配慮から中学生以下は禁止されている。

手順４　当該単元における「単元の評価規準」を設定します。

手順２にある「第１学年及び第２学年『武道（剣道）』における２年間を見通した指導事項の配置」の指導事項に対応した単元の評価規準を設定します。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
①武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることについて，言ったり書き出したりしている。 ②武道には技能の習得を通じて，人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて，言ったり書き出したりしている。	○基本動作 ①構えでは，相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。 ②体さばきでは，相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。 ③基本の打突の仕方と受け方では，中段の構えから体さばきを使って，面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすることができる。 ○しかけ技　＜二段の技＞ ④最初の小手打ちに相手が対応したとき，隙ができた面を打つことができる。（小手－面） ○応じ技＜抜き技＞ ※相手が面を打つとき，体をかわして隙ができた胴を打つこと（面抜き胴） （指導は行うが，評価は行わない。第２学年で評価）	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。	①武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。

手順５　当該単元における具体的な指導内容の明確化を図ります。

単元の目標の実現には，具体的な指導を充実した上で，「単元の評価規準」により評価を行うことが重要です。そのため，学習指導要領の記載等から，生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にします。

知識及び技能		思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
知識	技能		
武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であること。 ↓ ①武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることについて，言ったり書き出したりしている。 剣道には礼法を身に付けるなど，人間形成を図るという伝統的な考え方があること。 ↓ ②武道には技能の習得を通じて，人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて，言ったり書き出したりしている。	構えでは，相手の動きに応じて自然体で中段に構えること。 ↓ ①構えでは，相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。 体さばきでは，相手の動きに応じて歩み足や送り足をすること。 ↓ ②体さばきでは，相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。 中段の構えから体さばきを使って，面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。 ↓ ③基本打突の仕方と受け方では，中段の構えから体さばきを使って，面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。 最初の小手打ちに相手が対応したとき，隙ができた面を打つこと。 ↓ ④最初の小手打ちに相手が対応したとき，隙ができた面を打つことができる。（小手－面） 相手が面を打つとき，体をかわして隙ができた胴を打つこと。 ↓ ※相手が面を打つとき，体をかわして隙ができた胴を打つことができる。（面抜き胴） （評価は行わない。）	成功例，つまずき例を参考に有効打突のポイントについて，仲間の動きと比較し，伝えること。 ↓ ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 学習した安全上の留意点を仲間に伝えること。 ↓ ②学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。	単元全体を通して，目標の達成に向けて積極的に取り組むこと。 ↓ ①武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 相手を尊重し合うための独自の作法，所作，伝統的な行動の仕方を守ろうとすること。 ↓ ②相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 体調の変化などに気を配ること，竹刀などの用具の扱い方，練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること，技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすること。 ↓ ③禁じ技を用いないなど，健康・安全に留意している。

手順６　**単元の目標，単元の評価規準をもとに単元を構想しましょう。**

【単元構想】

<table>
<tr><td>単元名</td><td colspan="4">武道　剣道</td></tr>
<tr><td>単元の目標</td><td colspan="4">(1) 次の運動について，技ができる楽しさや喜びを味わい，武道の特性や成り立ち，伝統的な考え方，技の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようにする。
イ　剣道では，相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができるようにする。
(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
(3) 武道に積極的に取り組むとともに，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方 を守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや，禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単元の評価規準</td><td colspan="2">知識・技能</td><td rowspan="2">思考・判断・表現</td><td rowspan="2">主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td>知識</td><td>技能</td></tr>
<tr><td></td><td>①武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることについて，言ったり書き出したりしている。
②武道には技能の習得を通じて，人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて，言ったり書き出したりしている。</td><td>①構えでは，相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。
②体さばきでは，相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。
③基本打突の仕方と受け方では，中段の構えから体さばきを使って，面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすることができる。
④最初の小手打ちに相手が対応した時，隙ができた面を打つことができる。（小手一面）</td><td>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。
②学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。</td><td>①武道の学習に積極的に取り組もうとしている。
②相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。
③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。</td></tr>
<tr><td colspan="5">単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）</td></tr>
<tr><td colspan="5">仲間と協力して学習する中で，剣道（武道）に関する理解を深め，相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，攻防を展開して楽しさや喜びを味わい，日常生活でも武道をはじめスポーツに多様な関わり方をする生徒</td></tr>
<tr><td colspan="2">単元を通した学習課題</td><td colspan="3">本単元で働かせる見方・考え方</td></tr>
<tr><td colspan="2">基本動作と基本となる技の打ち方と打たせ方を身に着け，相手の隙を見つけて打突する動きを仲間と高めながら剣道を楽しもう。</td><td colspan="3">剣道は相手と正対し，相手の変化に応じてどのようにして，どんなタイミングで打つのかを思考しながら，攻防する。仲間の良い動きや打ち方の出来栄えを見る。改善点に気づいたり，ポイントを発表したり，教え合ったりして支える。剣道の特性や技のポイントを知るだけでなく，相手を尊重し，お互いに高め合う。といった多様な関わり方と関連付けること。</td></tr>
</table>

指導計画と評価計画は，手順５で考えた指導内容の明確化との整合性も図りましょう。

指導計画と評価計画

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習の流れ	0	オリエンテーション 伝統的な考え方	健康観察・本時のめあての確認・準備運動								
	10		スキルアップトレーニング 基本動作 構え方 素振り	スキルアップトレーニング　すり足・踏み込み足・基本となる技							
	20			打ち方 面装着 面，小手（右） 胴（右） 打たせ方 隙ができた時（剣先が開く・上がる，手元が上がる） 安全への配慮・協力			既習技の練習				既習技練習 基本となる技，連続技，抜き技
	30	剣道遊び体験	着装 胴、垂	竹刀打ち その場打ち 前進後退打ち 踏み込んで打つ 残心	正面打ち その場打ち 前進後退打ち 踏み込んで打つ 残心	有効打突 （気剣体の一致，相手の隙を見付ける，隙をつくる） 約束練習	判定試合① 技の出来映えを競う （気・剣・体の一致、残心）	連続技 相手の隙を見付ける，隙をつくる 約束練習	判定試合② 連続技の試合 （気）気迫のある発声 （剣）正しい打ち （体）美しい姿勢、残心	抜き技 約束練習	自由練習（攻防交代制）
	40			相手の動きに応じた動き			健康安全	小手ー面		面抜き胴 積極性	整理運動・片付け・単元のまとめ
	50		整理運動・片付け・学習の振り返り・次時の確認				出来栄えや課題の伝達				

評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０
	知	②	①								総括的な評価
	技		①	(②)	②(③)	③		(④)	④		
	思						①	②			
	態			②			③			①	

【評価方法】知識（学習カード）技能（観察）思考・判断・表現（学習カード・観察）主体的に学習に取り組む態度（観察　学習カード）

具体的な指導内容

１　関連して高まる体力とその体力向上の手立て

剣道では主として瞬発力，敏捷性，巧緻性などがそれぞれの技に関連して高められる。

（１）敏捷性を高める運動

○手刀で正対し，リーダーの出す技に対して敏速に反応し，技を出し合い攻防を楽しませる。

○２人で向かい合い，リーダーの動きに合わせてサイドステップをする。次に剣道の足さばきで行う。

（２）瞬発力を高める運動

２人で向かい合い，１人は縦４つ折りにした手ぬぐいを胸の高さ程度で手のひらを上に向け，両手で軽く支えて横に持つ。もう１人は，手刀で，その手ぬぐいを切り落とす。手ぬぐいを持っている方は，切り落とされないように，相手が切ってきた瞬間に手ぬぐいを握りしめる。

２　基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のために（技能向上のための手立て）

○新聞紙切り（竹刀を真っすぐに振る。サッカーのスローインのイメージで竹刀の先を遠くに振る。）

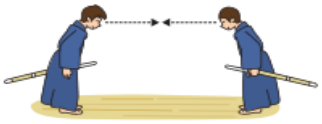
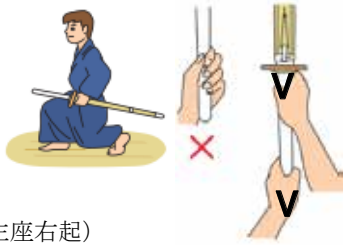
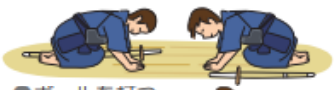
○竹刀ボール打ち（竹刀の打突部で繰り返しボールの中心を打ち，弾ませる。）

○すり足～広げ足（踏み込み）
※２ステップした後に，続けて足幅を広げてステップする。足幅を広げてステップをするタイミングに合わせて腕を伸ばし，竹刀を前方に振る。

3　ＩＣＴ活用
ＩＣＴ機器で互いの「基本動作」「打ち方」などを撮影し，「間合」「姿勢」「すり足」などを確認しながら練習する。単に両者の違いを明らかにするだけでなく，理由を考え，話合いの場を設定する。
例：「中段の構えの竹刀の先の高さが，初心者より経験者の方が低くなっているのはなぜか」を問うことにより，構えの意味を知り，必要感が生まれる。経験者の合理的な動きを理解し，自分の動きに生かせるようにする。

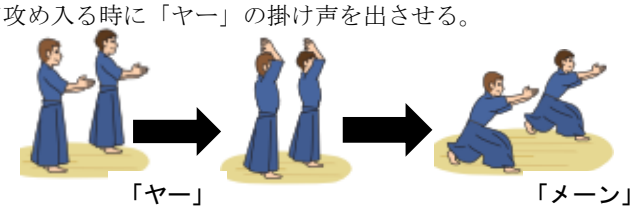
4　障がいのある生徒などへの配慮　例：自分の力をコントロールすることが難しい場合
○力が入りすぎて，打突部位を外してしまう場合は，竹刀操作を自動車の運転に例え，左手は「エンジン」右手は「ハンドル」のイメージを持たせるようにする。
○竹刀によるボール打ちをさせる際に，「柔らかい野菜」を刀で切るイメージで竹刀を振るようにアドバイスする。

5　体力や技能の程度，性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために，運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような学習活動・学習形態・練習の取り組み方，ルールやゲームの工夫，男女共習の工夫例など
○竹刀が重く感じてしまう生徒は新聞紙で作った刀を使い，正しい振り方を覚えやすくする。
○竹刀の物打部分側面に，赤と青の色を付けることで，有効打突の判断をしやすくするとともに，竹刀の表と裏の意識をもてるようする。
○防具の打突部位に色テープを貼ることで，打つ人にとって打突のねらいを定めやすくしたり，審判が判定しやすくしたりする。

時間	学　習　内　容　・　活　動
1	【学習内容】 ○剣道には礼法を身に付けるなど，人間形成を図るという伝統的な考え方があること。（知） ○剣道の歴史と特性を理解し，礼法を身に付けていること。（知） ●立礼（2人組）  1　オリエンテーション （1）剣道の歴史と特性 ①剣道具（防具），竹刀，木刀 ②竹刀の安全な取り扱い ③有効打突（一本） 「左座右起」により、左足から座り 右足で立つ行動様式を身に付けさせる。  ●座礼（2人組）  ●ボールを打つ ●ドリブル 2　礼法について学習する。 （1）立礼（２人組） （2）正座（座り方，立ち方　※左座右起） （3）座礼（２人組） 3　剣道遊び体験をする。　※竹刀の握り口は「Ｖ(ブイ)」の形 （1）ボール打ち…相手が持っているボールの中心を真っすぐに振りかぶって打つ。 （2）ドリブル……刃筋正しく連続でボールを打つ。 （3）新聞紙切り…両端を持って広げた新聞紙（１枚）を竹刀で切る。
2	【学習内容】 ○相手の動きに応じて自然体で中段に構えること。（技） ○武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であること。（知） 1　スキルアップトレーニングをする。（詳細は参考資料１） ※ボールドリブル，１・２・３・４(広げ足) 2　基本動作を学習する。 （1）送り足，体さばき，踏み込み足 ※自然体から手刀で臍前に構えさせる。 「広げ足」は「踏み込み足」の習得につなげるため初歩的な練習です。 広げ足は左足で床を蹴って、右足を前に出します。 ２ステップの歩幅の 1.5 倍程度，右足をやや広めて前に出すと「踏み込み足」になります。右足は上ではなく，**前に出すイメージ**をもたせましょう。

※前進して攻め入る時に「ヤー」の掛け声を出させる。

（2）残心



3　対人での一連の基本動作（竹刀の握り方・中段の構え方）

4　剣道具（垂と胴）の着装（詳細は参考資料２）

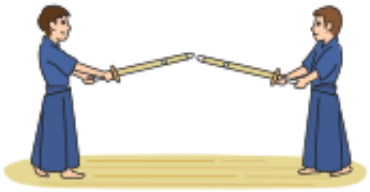
※剣道は「紐を結ぶ」という伝統的な文化をもっています。まず，垂を腰の位置に着けます。大垂を表にして帯を背面で交差し，腹部で結びます。初めて剣道を経験する生徒にとっては胴の装着は難しいと思われます。通常，胴紐（上）から結びますが， 胴紐（下）を結び胴の高さを決めてから胴紐（上）を結ぶ方法もあります。

3

【学習内容】
○相手の動きに応じて歩み足や送り足をすること。（技）
○相手を尊重し合うための独自の作法，所作，伝統的な行動の仕方を守ろうとすること。（学）

1　スキルアップトレーニングをする。

●中段の構えと目付け（2人組）



2　基本動作を学習する。

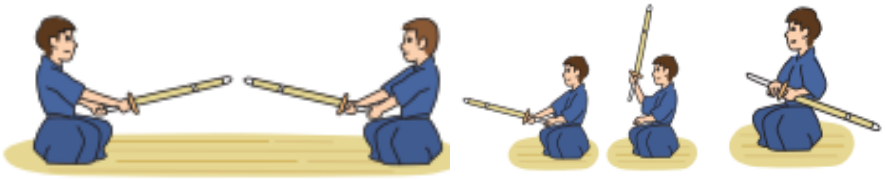
（1）中段構えと目付け

※中段の構えは，竹刀の剣先の高さは相手の胸部の高さほどで，剣先の延長が両目の中央または左目になるようにします。

※目付けは，目の付けどころのことです。相手の目を見ながらも身体全体に意を配るようにします。

（2）構え方と納め方（蹲踞）

●構え方と納め方（蹲踞）



（3）素振り（空間打突）

3　打ち方と打たせ方を学習する。

（1）打突部位の確認

安全面に配慮し，それぞれの打突部位の打たせ方を確認する際に竹刀の弦の反対の面を打たせるようにしましょう。※弦のある面を打つと竹刀が破損しやすくなります。

（2）段階的な打突（その場打ち→前進後退打ち→踏み込んで打つ→残心）

4　竹刀打ちをする。

（1）リズムに乗って打つ…『365 日の紙飛行機』『世界に一つだけの花』などの曲に合わせて行う。後足（左足）の引き付けを意識させる。

1（遠間から一足一刀の間合に入る）
2（打突部を打つ）
3（半歩下がって残心）
4（一歩下がって，遠間に戻る）
のリズムで曲に合わせて繰り返します。

（2）師匠（元立ち）と弟子（かかり手）…役割を交替しながら，互いに基本となる技を打ったり，打たせたりする。

4

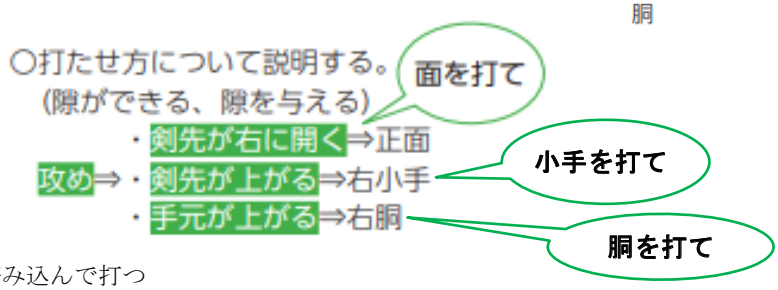
【学習内容】
○相手の動きに応じて歩み足や送り足をすること。（技）
○中段の構えから体さばきを使って，面や胴(右)や小手(右)の部位を打ったり受けたりすること。（技）

1　スキルアップトレーニングをする。

2　前時の約束練習の復習をする。

3　剣道具（面と小手）の装着（詳細は参考資料３）
※剣道具の装着はペアで協力して行わせる。

4　打たせ方の学習をする。
※遠間→１歩前に攻める
→一足一刀の間（隙ができる，隙を与える）
→打突する
（１）正面…剣先が右に開く
（２）小手…剣先が上がる
（３）胴…手元で上がる
※打ちと掛け声が一致するように行わせる。
※後足（左足）の引き付けに意識して行わせる。



5　正面打ちをする。
※その場で打つ→送り足で打つ→踏み込んで打つ

5

【学習内容】
○中段の構えから体さばきを使って，面や胴(右)や小手(右)の部位を打ったり受けたりすること。（技）
○相手の動きに応じた基本となる技を打ったり，打たせたりすることができること。（技）

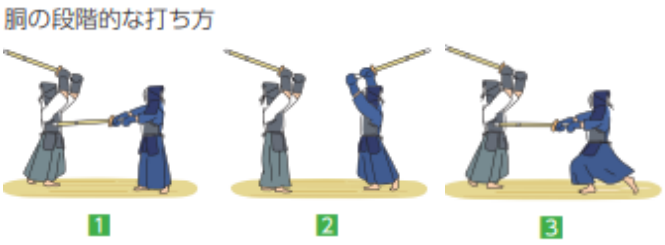
1　スキルアップトレーニングをする。

2　剣道具（面・小手）の装着をする。

3　前時の打たせ方・正面打ちの復習をする。

4　小手（右）打ちを学習する。
1 その場で打つ
↓
2 一足一刀の間合から打つ
↓
3 一足一刀の間合に攻め入り踏み込んで打つ
※その場：竹刀が打突部位に届く間合
※一足一刀の間合：一歩踏み込めば竹刀が打突部位に届く間合

5　胴（右）打ち
1 その場で打つ
↓
2 一足一刀の間合から打つ
↓
3 一足一刀の間合に攻め入り踏み込んで打つ
※胴打ちは右足（前足）を右斜め前方に出しながら，打つと同時に左足（後足）を引き付けさせる。



6　約束練習をする。
※遠間→１歩前に進んで攻める→一足一刀の間合→打突→残心
※元立ち（打たせる側）は，相手の攻めに対して，正面・小手・胴を「○○を打て」の号令をかけ，隙を与えて打たせる。

6

【学習内容】
○成功例，つまずき例を参考に有効打突のポイントについて，仲間に出来栄えや課題を伝えることができること。（思）
○体調の変化などに気を配ること，竹刀などの用具の扱い方，練習場所などの自己や仲間の安全に留意することや技能の程度にあった運動をすること。（学）

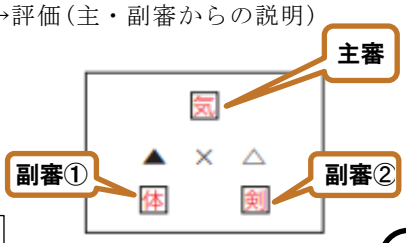
1　スキルアップトレーニングをする。

2　剣道具（面・小手）の装着をする。　※竹刀の安全確認（詳細は参考資料４）

3　既習技の復習をする。
※基本となる技（正面・小手・胴→残心），
※約束練習（元立ちの号令→打突→残心）

4　基本となる技の出来栄えを競う判定試合をする。（絶対評価）
※判定基準を明確にし，有効打突の条件を３名の審判で役割分担して判定する。（詳細は参考資料５）
※５名程度の班を作り，審判と試合者を左回りローテーションしながら，判定試合を行う。
※主審に号令をかけさせる。
礼→はじめ→(試合)→判定→礼→評価(主・副審からの説明)

判定(基準を満たしていると判断したら旗を揚げる)



評価(審判は判定した内容の理由を説明する)

★判定基準を明確にする★
主　審…**気**（気迫のある大きな声が出せているか。）
副審①…**剣**（打突部を打突部位で捉えているか。）
副審②…**体**（姿勢，体，足の出と残心はできているか。）

主審・副審が有効打突のポイントについて，仲間に伝えられるように左のように判定基準を明確にしよう。

7

【学習内容】
○小手(右)を打ち，相手が竹刀を開いたり，手元をさげて防いだりした隙に面を打つこと（技）
○学習した安全上の留意点を学習場面であてはめ仲間に伝えること。（思）

1　スキルアップトレーニングをする。

2　剣道具（面・小手）の装着をする。
※剣道具の着装が正しくできているか互いに確認させる。

3　既習技の復習をする。※基本となる技（正面・小手・胴→残心）

4　連続技（小手→面）の学習をする。
（１）打ち方
※小手（右）を打ち，相手が竹刀を開いたり，手元をさげて防いだりした隙に面を打つ。
（２）打たせ方
※元立ち（打たせる側）は小手を打たせた後に１歩退いて面を打てる間合をつくり，右に体さばきをして，かかり手（打つ方）を抜けさせる。
小手…剣先が上がる（右手を打たせる）
↓
面…剣先を開く（右方向へ）

5　約束練習をする。
※遠間→１歩前に進んで攻める→一足一刀の間合→打突→残心
※元立ち（打たせる側）は，相手の攻めに対して，学習した連続技（小手面）に正面・小手・胴を入れながら「○○を打て」の号令をかけ，隙を与えて打たせる。

8	【学習内容】 ○小手(右)を打ち，相手が竹刀を開いたり，手元をさげて防いだりした隙に面を打つこと（技） 1　スキルアップトレーニングをする。 2　おでこタッチゲーム（詳細は参考資料６） ※ゲームを通じて，右斜め前方への体さばきを意識させる。 3　剣道具（小手・面）の装着をする。 4　連続技（小手→面）の復習をする。 5　連続技（小手→面）の出来栄えを競う判定試合をする。（絶対評価） ※判定基準及び実施方法は６時間目と同じ
9	【学習内容】 ○相手が面を打つとき，体をかわして隙ができた胴を打つこと(面抜き胴)(指導は行うが，第２学年で評価) ○単元全体を通して，目標の達成に向けて積極的に取り組めること。（学） 1　スキルアップトレーニングをする。 2　胴タッチゲームをする。（詳細は参考資料６） ※ゲームを通じて，右斜め前方への「体さばき」と「手首の返し」を意識させる。 「手首の返し方」右手の手首を返しながら， 親指を下に向けて相手の胴にタッチしてみよう。 3　剣道具（面・小手）の装着をする。 ※剣道具の装着は短時間で正確にできるよう仲間と協力して行わせる。 4　既習技の復習をする。※基本となる技，連続技（小手・面） 5　面抜き胴（右）の学習をする。 ※相手が面を打とうとする瞬間，送り足で右斜め前方に右足（前足）を踏み出し，すれ違いながら相手に空を打たせて胴（右）を打つようにさせる。 おでこタッチゲームと胴タッチゲームで学習した動きを， 実際に竹刀を使ってやってみよう。 ※動きに慣れてきたら，９歩の間合で正対し，２ステップ～広げ足のリズムに合わせて，互いに面と胴を打つ。
１０	【学習内容】 ○これまで学習してきた技を出しながら，相手の隙を見つけ打突部位を打てること。 1　スキルアップトレーニングをする。 2　剣道具（小手・面）の装着をする。 3　既習技の復習をする。　※基本となる技，連続技，抜き技 4　攻防交代制の自由練習をする。※３０秒で攻防を交代する。 自由練習では，攻める気持ちで行わせると同時に相手を尊重して行わせましょう。禁じ技や防具のない部位を打ったりしないよう十分指導してください。また，負けた人の心をくみ取る**「惻隠の情」**のか考え方について理解させましょう。(詳細は参考資料７) ※攻防交代制にすることで，積極的に技を出しやすい状況をつくる。 ※技を出しながら，相手の隙を見つけ打突部位を打てるようにする。

≪参考資料≫

1　スキルアップトレーニング

①ボールドリブル

※バレーボールを床に静止した状態からドリブルし，時間がきたら竹刀で押さえて止める。

②１・２・３・４(広げ足)

※右足を前にして中段の構えをし，ステップを３回した後に広げ足を繰り返す。

③１・２・３・シュッ(広げ足)

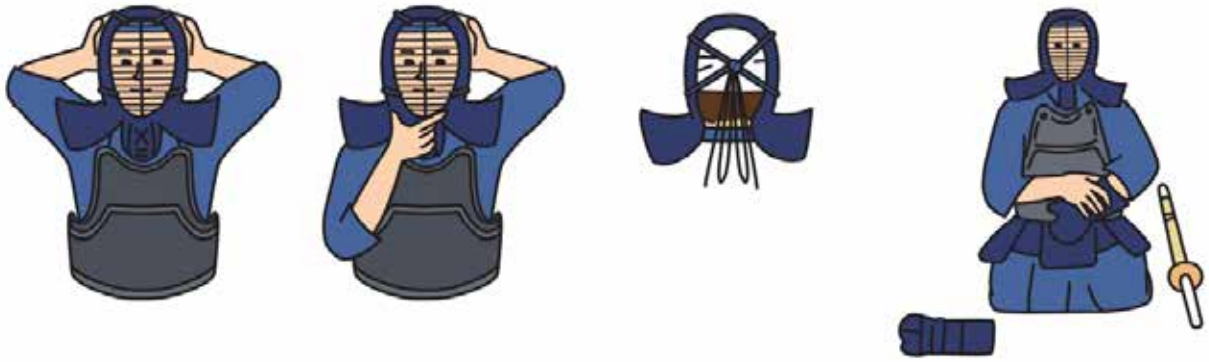
※１・２はステップ，３でステップと同時に手刀を頭上まで振り上げ，広げ足と同時に竹刀を振り下ろす。手刀の振り下ろしはサッカーのスローインでボールを遠くに投げるイメージで行わせる。

2「垂」「胴」の着け方

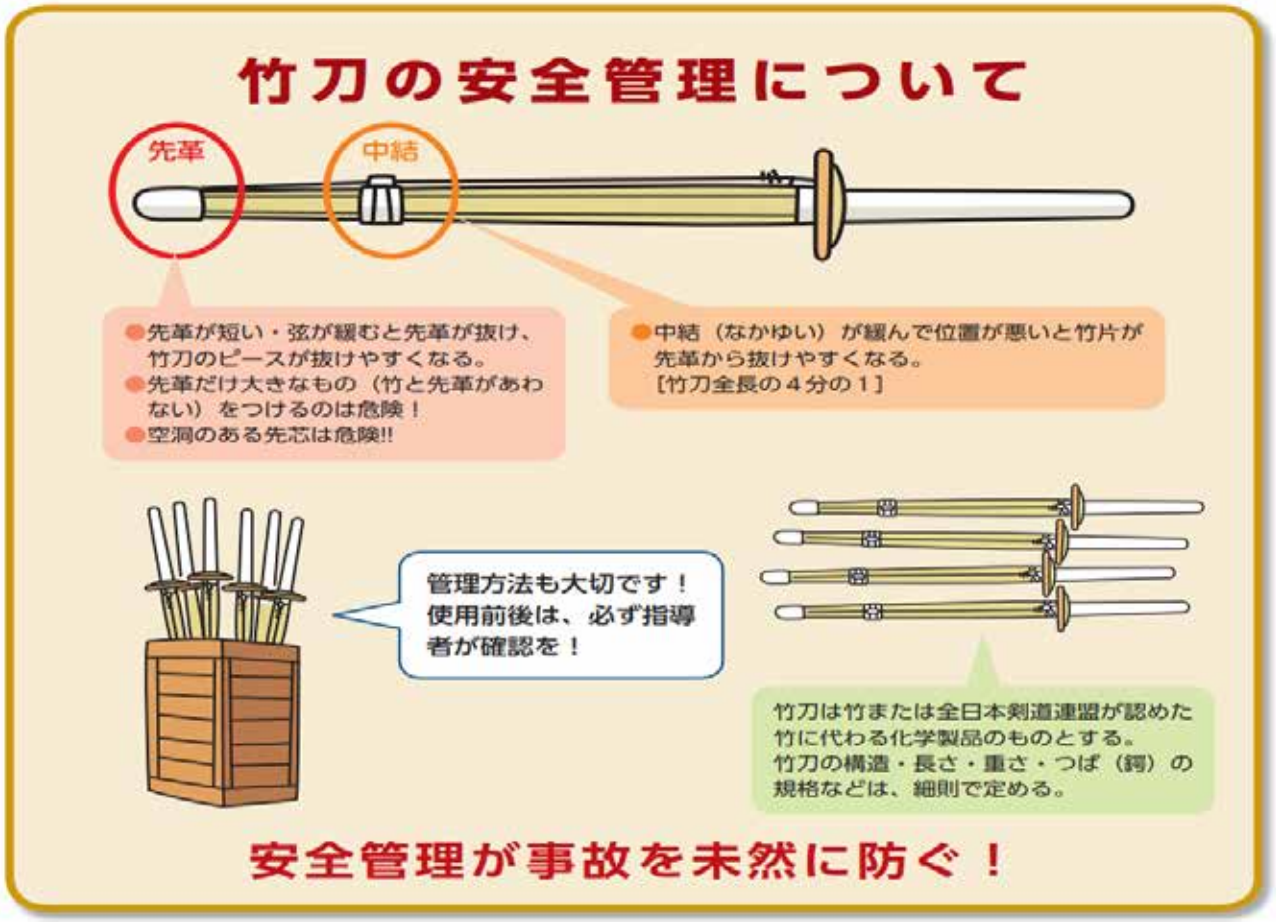
胴紐（上）の結び方は授業の初期段階の簡易的な方法として，2を指導します。最終的には剣道の伝統的な方法として1の結び方を習得するようにします。

3「面」「小手」の着け方

面は，手拭いがずれないように，あごの位置を決め，面紐がばらけないように押さえてかぶります。面金の横 金は通常 14 本あり，上から６本目と７本目の広くなっている所を，物見(ものみ)といいます。その物見から見るように調整して紐を締めます。結び目が大体目の高さになるように後頭部で結びます。結んだ紐の長さを揃えるようにし ます。



4　竹刀の安全管理について



5　有効打突の条件

有効打突（一本）の条件

充実した気勢（声）、適正な姿勢をもって
竹刀の打突部（物打）で
打突部位（正面・小手・胴）を
刃筋正しく打突し、残心あるものとする。

気（声・気力）
剣（竹刀）
体（体さばきと体勢）
の一致した打突

＋

残心（打突後、いつでも相手に対応できる気構え・身構え）

6　面抜き胴のイメージを持たせる練習

（1）おでこタッチゲーム

①２人で向かい合って，右手で中段（手刀）に構える。

※間合は互いの手の甲が触れる程度，左手は腰。足は前後。（右足が前）

②攻撃する側は，相手のおでこの中央に，右の手のひらでパッと触りにいく。【第１段階】

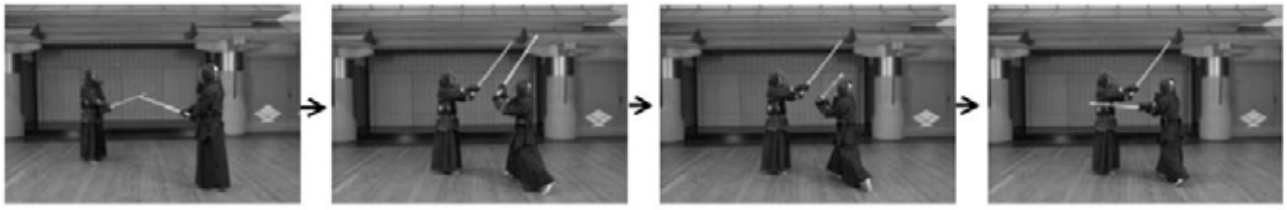
③受ける側は仕掛ける側が伸ばしてきた手のひらを右肩側に首を曲げてパッとよける。【第２段階】

※動きに慣れてきたら，首の曲げと右足を斜めに踏み出すことの両方を同時に行う。【第３段階】

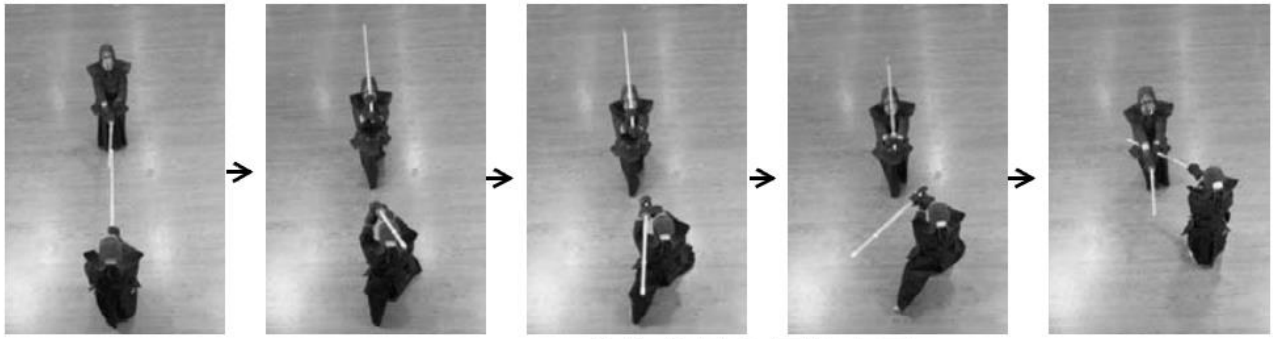
（2）胴タッチゲーム

上記（おでこタッチゲーム）の①②までは同じ，第３段階の動きに攻撃する側の右胴（受ける側から見ると左側）を手のひらで触れる（親指は下向き）動きを加える。

第３段階の動きの後に，受ける側は斜めに踏み出した右足に左足を引きつける。【第４段階】



面抜き胴



上から見た面抜き胴

参考資料(上の写真)　学校体育実技指導資料第１集「剣道指導の手引」　平成２２年３月 文部科学省

7　惻隠の情について

「惻」も「隠」も心を痛めるという意味で，人が困っているのを見て，わがことのように心を痛める様を言います。敗者への思いやりと謙虚さを忘れないようにすることは，周囲に目を向ける姿勢を保つことにもつながります。

8　しかけ技，応じ技の仕組み

めあて「打突部位を正確に打てるようになろう。」

年　　組　　号　名前

自分の得意技：	

今日の学習を振り返って自己評価してみましょう。

◎：良くできた　　○：できた　　△：もう少し

打突のできばえ	
判定基準	評価
声の大きさ（気）：大きな声が出せた。	
正しい姿勢（体）：美しい姿勢でバランス良く打突できた。	
正確な打突（剣）：正確な部位を打つことができた。	

打たせ方のできばえ	
判定基準	評価
相手と気持ちを合わせることができた。	
しっかり打たせることができた。	
正しい方向に素早く体をさばくことができた。	

今日の感想（成果と課題）